

なやましむる人なく只漕々として落ちたぎつ瀧の音絶えずきこゆる水車の音と  
 相和して夜のさひしさをやふれと愈心すむたよりとなりてかまがましとも覺え  
 ず二更の頃を過ぎしとき一本松の梢一まきりふきゆく風に雲や吹き散らされけ  
 んまたれま月影えも云はすてり出てぬあまりのうれまさに水の面にをり立ちて  
 月もろとも掬びあぐれば金波銀波ちり碎けては底にすむうろくの静なる夢や  
 さめつらんわれ天下を掌にする雄圖なま獨り月光を弄ふと莞爾として顧みれば  
 わが風にやふるゝと歌ひま汀邊みぎわの芭蕉の若葉の露もまだひはてぬに月の光りわ  
 たるもはかなくなかめられぬ長石の下科頭に箕踞し白眼もて人生を笑ひ如泡夢  
 幻を觀じて念珠つまぐるまで世棄てはてしにはあらねと獨り山寺の月に心をす  
 まさんはちりの巷のちりに埋もれぬる身にはまたなくゆかまぐすしきとにこ  
 そ覺えしか

含暉樓賦呈古梅先生先生曾選

吳澹川詩載在廿四家選本因用題

其秋江收釣圖韵

講師 落合東郭

海。西。八。月。劈。皴。筆。勢。直。捲。廣。陵。濤。墨。華。四。散。香。迷。座。珍。重。何。嘗。一。字。蕭。夕。陽。長。橋。闌。影。赤。  
 含。暉。樓。上。邀。佳。客。夫。妻。追。隨。抵。梁。鴻。對。酒。寧。說。鬢。髮。白。鬢。々。楊。柳。送。畫。船。前。川。映。出。裙。色。鮮。

王。家。風。流。可。庶。幾。一。枝。筆。勝。一。釣。竿。刻。燭。詩。興。何。靈。秀。吟。成。未。曾。落。人。後。千。顆。萬。顆。唾。皆。珠。  
宛。轉。仍。在。盤。上。走。乘。興。飄。然。忽。揚。舲。指。點。九。州。凌。杏。冥。筆。陣。不。翅。掃。千。軍。笑。向。明。月。掣。長。鯨。  
嗚。呼。先。生。故。國。亦。有。煙。水。濶。逸。氣。飛。騰。不。讓。太。湖。精。

長尾雨山曰：起得橫空飛騰，更以麗句承接，極多姿趣，饒々以下數句，與酣淋漓，如三峽從流瀉下，唾珠宛轉，可移以評此篇。  
末段更起筆顧篇首，雄拔豪宕，譬猶畫龍，全身既成，終點眼睛，鱗甲振動矣。

雜吟

藤竹洲

夏日偶成

翠陰繁處小廬成，終日引涼氣宇清。眺望雖無山水景，簾前常有竹風聲。

午睡

關中無一事，夢裡夕陽斜。曲肱吾真足，清風竹外家。

山影涵池水，水風枕席冷。林亭一炊夢，身在白雲鄉。

江亭避暑

茅屋枕江水，青山四望通。廢書時偃臥，領略北窓風。

一脈香風起，新荷面々飄。不知亭裡客，滿目夏林焦。

起句裝倒住

文苑

苦熱

炎天金石爍。不得一篇文。取扇開襟坐。空望出岫雲。

夏日喜雨

黑雲如鵬翼。驟雨似秋生。積熱一時盡。青山兩眼明。

一讀覺涼

已亥夏一夜浮舟畫湖思亡友

回頭歲月似飛梭。人去水流恨事多。月出東山蘆荻白。一聲吹笛為誰歌。

夏日山家

蜂影落池水。小廬修竹圍。暮鐘聲響處。童子逐牛歸。

立秋

七月金風入草堂。梧桐一葉逐斜陽。堪悲父母不俟我。又得數莖兩鬢霜。

至情可掬

秋日早發

早發望中曉霧朦。西山突兀衝半空。冥々唯聽行人語。渡水初逢刈草童。

送友人之東都

北地悠悠幾里程。征衣蕭索馬蹄輕。再會談心又何日。莫使秋鴻空發聲。

唐音

述懷

難禁胸中萬感生。梧桐窗外已秋聲。悠悠歲月如流水。何日能留身後名。

完璧

、那順興一

往事悠悠幾百年。弦聲肅々至今傳。男子心情有人問。屋嶋浦頭一發箭。

宗高宜音肯

、到平戶

唯樂讀書接古人。清吟且欲拂胸塵。炎威難遏西遊意。鸞鵲風光待我頻。生來養氣幾春秋。窈窕高山彥九儔。旬日病魔今漸去。秋風一夜入鸞洲。

、望佐賀城

曠野茫茫雲氣生。前村後落稻波平。鐵車轉々向西發。萬綠一堆佐賀城。

、到伊萬里灣

蓬窗時一望。兩岸幾峰巒。午下潮流急。魚飛水有聲。

如畫

、宿今福港 此夜密雲如墨蓋雨微

今福浦頭暮水平。暗雲又見向窓橫。明朝蹈月吾將發。風雨關心千里程。

、發今福途上所見

一路倚山々。枕海幾帆蹴。浪々摩雲。壹州杳々晝天水。兩兩斜來白鷺群。

起得離停後句不稱、可惜、

平戶所得

蒼然暮暖逼松亭。風拂海波涼氣冷。天色水光何處是。難分漁火與群星。  
玄海波頭薄暮還。白峰山下兩灣環。暗中遙指水天際。漁火如星明滅間。

發平戶到中里村我與今井氏訪檀林氏於中里村將達驟雨一過如覆盆忽再一晴滿目加涼

雨下夏山路。人迷薄暮前。尋來中里驛。滿水野橋邊。

己亥初秋 猿堂批

漁村晚春

漁村春盡水迢々。幾處楊花趁晚潮。一曲瑤簫吹恨去。月明江北五長橋。

去つと

東郭云、妖約。

漁火

衣冠拋去意何閑。獨向江湖弄釣竿。一帶沙洲霜似雪。蘆花明月覆灣々。

門司懷古(此夜與竹節子飲于望洋樓)

蒼茫冥色接羸洲。知是北豐東盡頭。萬里奔潮驚客夢。千里怒浪動江樓。風高滄海魚龍哭。  
月黑長天鳥鵲愁。一夜把杯斟綠酒。與君轟醉視洋秋。

登扇城

折戟沈沙誰也收。當年霸業付墟邱。斜陽殘日照荒壘。遠水寒烟連廢樓。幾處扁舟載過雨。  
何邊牧笛送歸牛。江山自是感遊子。喬木千章黃落秋。

東郭云、哀婉之意、以瀟酒之筆寫之、是學青邱者。

題觀海樓 溪山子所居

藤井膽南

登臨誰不叫奇哉樓枕有明海上開最好晴濶磨鏡處雲仙淡寫翠眉來溫泉岳一用雲仙字

雨霽西山爽氣澄浮々入檻翠嵐凝溪風忽拂密雲去露出前林塔一層

同

快心何問醉兼醒佳話清話水一亭輕雨乍來還乍去涼燈搖曳竹風青

同

夜氣透衣涼似秋水邊燈火認漁舟風情最是難描處蘆荻颯々月一鉤

同

砂鷗呼處景非凡一抹殘陽帶遠帆緩步斜穿蘆荻路晚風如水灑吟衫

同

路入西郊畫趣生人家水竹有餘清露氣風光秋正好一輪涼月百蟲聲

同

大瀑雲中落鞋々撼亂峰衝天崖萬仞遮日樹千重噴沫晴猶雨生風夏似冬爽然塵氣絕

偏覺豁吟胸

○納涼

同

殘日西山落追涼興不孤月懸垂柳外人立小池隅荷氣風浮動鬢光雲有無爽然忘煩熱

夜露沁吟膚

水邊看月得統字

興長宵更短涼影水邊看清愛衫青葛輕憐扇素統。鴈眠靜風露魚躍波濶猶恐雞鳴早、  
柳梢月已殘。

兒島先生批點

秋風吟 鐘山人

夕浪船

柴津やま、

けふりに暮るゝ尾上路を、

か弱き足にふみ登り、

夕浪さむくいま沈む、

マストの末を遠かたに、

郎よまばえとひれ振りて、

呼ぶ人としては無げれども、

硫黄灘、

千里の海に舵とりて、

知らぬ國へとわれ行けば、

遠く夕べの汐めぐる、

雲井に消ゆる豊國の、

春日の浦の磯わたり、

同

たゞ懐かしく望まれて、

今宵はも、

いづこの浦にかち枕、

汐たれ衣かたえきて、

悲しき夢をむすぶらむ、

月夜わかるき磯ならば、

せめては浪の鳴る音にも、

窓ふく風のひいきにも、

をかしき歌のあるらめど、

あゝ哀れ、

わが行く方は肥後の國、

阿蘇の谷よりながれ出て、

名のみ涼しき白川や、

堤のくるに月逐ひて、